

新刊 (十二月二十日迄に寄贈を受けし)

- 英 學 生 二ノ主、三ノ一 東 西 社
- イーストエンドウエスト二 同
- ハガキ文學 十七 日本葉書會
- 挿繪の多き記事の豊なる他に比なし
- 美術新報 四ノ主、五 畫 報 社
- 美術新報 四ノ主、五 畫 報 社
- 美術界の消息を知る唯一の機關誌なり
- 文 庫 三十ノ一、二内外出版協會
- 家庭の友 三ノ八 同
- 向上主義 十六、十七 久 友 社
- 白 百 合 三ノ一 東 京 純 文 社
- 天長節の紀念號韻文散文共に見るべきもの多し
- 國民評論 九 國民評論社
- 音 樂 八ノ七 樂 友 社
- 歌 舞 伎 六十七 歌 舞 伎 發 行 所
- 能 樂 三ノ十 能 樂 館
- 新 潮 三ノ五 新 潮 社
- 學 燈 九ノ十 丸 善 株 式 會 社
- 日本園藝雜誌中秋の巻 日本園藝會
- 日本美術 八十一 日本美術社
- 眼は如何に物を見るか、雲のいろく。一は有益に、一は興味深し
- 寫眞月報 十ノ十 小 西 木 店
- いつも乍ら挿入の印畫美はし
- 洋畫講習錄 一 大 日 本 繪 畫 會
- 洋畫に關する一通りの知識を得るに極めて適當なる好書物なり

●東海中立新聞 毎號 同

- 帝國文學 十一ノ十一 帝國文學會
- 新 公 論 二十ノ十一 新 公 論 社
- 急 先 鋒 革命會
- 在水戸東白瀨氏の主宰せらるゝ文學雜誌なり、猶一層鋭かれと冀ふ
- 平 旦 社
- 家庭のしるべ 十六 白 木 屋
- 時 好 三ノ十一 三 越 吳 服 店
- 共に美しきカタロクにして有益なる家庭のしるべものあり
- 圖書世界 六ノ七 博 文 館
- 新古文林 一ノ八 近 事 書 報 社
- 三百廿頁十八錢といふ比類なき廉價なれど、内容は趣味多く、殊に未醒の挿畫は奇趣横溢
- 手紙雜誌 二ノ八 有 樂 社
- いつ見ても面白し
- 歡聲(音樂新報菊花號) 音樂新報社
- 先 世 一ノ一 先 世 社
- 有益なる記事に富む通俗學術雜誌にして全紙一の駄文字なくよく初めより終迄快讀せしむ、吾人ばかりの眞面目なる雜誌の誕生を祝し、且健全なる發達を望む
- 中央公論 二百號 中 央 公 論 社
- 漱石氏の薙露行尤もよむべく、一字一句幽玄深刻、恰も名家の繪を見るが如し
- 東郷評論 一 東 郷 評 論 社
- 東京美術學校 四ノ一、二 同
- 校友會月報 會

會 告

- 學校又は同志の間に、寫生會、エハガキ會等の設けあるものは、其景況をなるべく詳しく通報せられたし
- 前項團體及び個人の作品の現物、若くは寫眞を寄贈せらるれば、優秀なるものに限り、寫眞版に付して、本誌に登載すべし但作品ははがき大に限る
- 左の事項につき廣く投書を求む
- 水彩畫に志せし最初の動機
- 始めて戸外寫生を試みし時の感
- 寫生中に起りし興味ある出來事
- 繪を學びし爲めに得たる顯著なる利益
- 其他水彩畫に關する意見報導小品文等
- 以上メ切の期を定めず、半紙十行二十字詰にて、簡單に、字體明瞭に認められたし
- 繪畫及寄稿にして、本誌に登載せしもの(讀者の領分欄を除く)には、主任大下藤次郎の肉筆繪葉書一葉を贈るべし
- 投稿の返戻を望まるゝ方は、相當の郵券を添へられたし
- 水彩畫に關する質問にして、一般讀者に有益と認むるものは、答を紙上に掲載すべし、但初めより返信料を添へられしものは直ちに答書を送るべし
- 眞野紀太郎氏は、遠近法に關する質問に答へらるべし
- 但復なる圖説を要するものは此限りにあらず